

奨励賞

○設計者

木下昌大

- 東京建築士会
- 木下昌大建築設計事務所



撮影：Cedric Diradourian

○研究所

JFEケミカル・ケミカル研究所

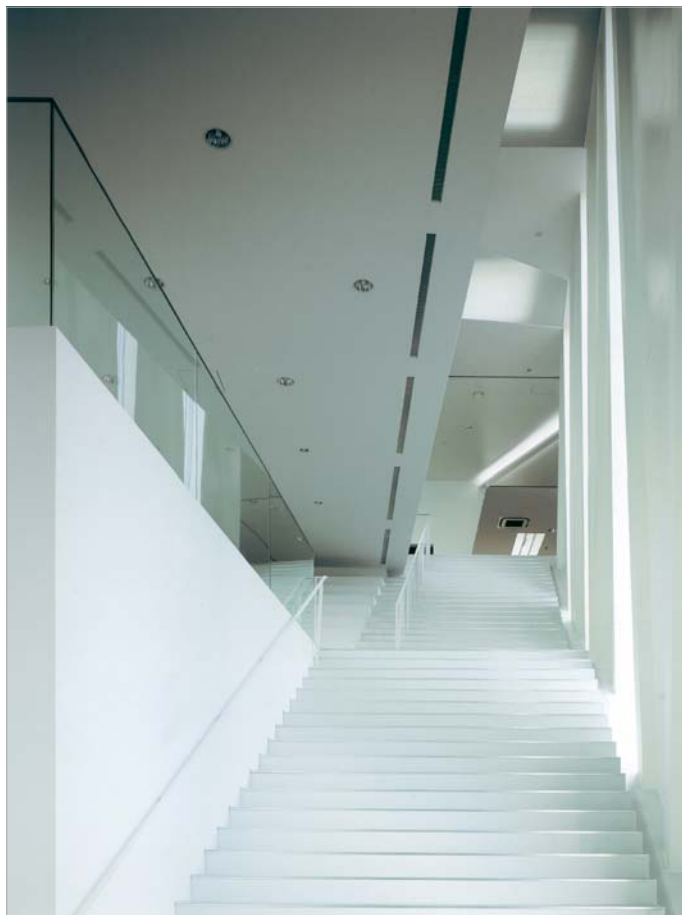
- 千葉県千葉市中央区川崎町

▶▶▶ 選評

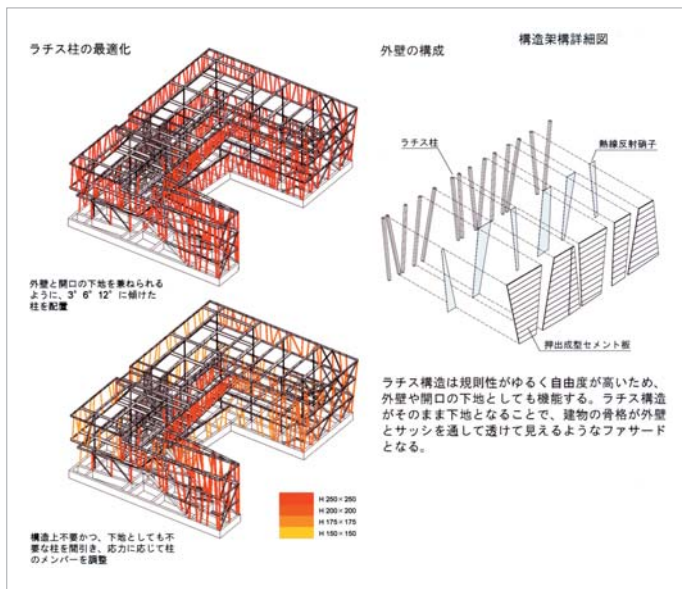
近代日本経済の成長を支えたあの製鉄所の美しくも圧倒的な工場群の只中に、周辺との関係を拒絶するように立つこのプロジェクトは、独立したばかりの化学会社が若い優秀な研究者を呼べるよう斬新な研究所をということで開催されたコンペで選ばれたものである。

渦を巻くシンボリックな外観の中庭部にエントランスが用意されており、そこから振り返って一挙に大階段が3階まで続く客用動線。それに沿って面談スペース、応接コーナー、講堂などが設けられ、実験室の見学通路につながっている。このルートとは逆回転方向にトポロジカルな研究員のルートが設けられ、1階と3階が実験室、2階が事務室という構成。事務室はラチス柱に沿ったランダムな窓を有した上下階のボリュームと縁を切るように深い縁側スペースを持った連続開口となっている。強引で恣意的な動線、限定的なフレキシビリティの研究室、開口部の腰が高くかえって閉鎖的な事務室やテラス、ラチス構造とは別に水平力を負担するコアの構造計画など、あえて指摘せざるを得ないものの、すばらしいクライアントとの信頼関係、意図を実現する強い意志など設計者の非凡な才能と、形の持つ力をあらためて感じる意欲作である。

(櫻井 潔)



A



B

- A：エントランス階段見上げ
- B：ラチス柱の最適化。外壁と開口部の下地を兼ねられるように、3°、6°、12°に傾けた柱を配置
- C：南西側外観
- D：正面全景
- E：講堂からエントランス階段方向を見る

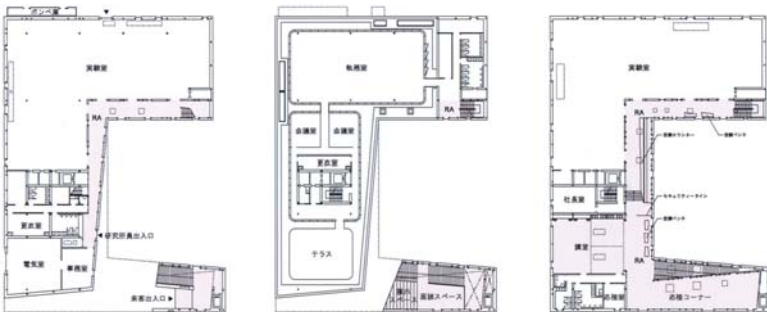
写真撮影：河野太一、平井広行



C



D



(左から) 1階平面図 2階平面図 3階平面図

- 構造・階数：S造、地上3階建
- 敷地面積：約6,000,000m²
- 建築面積：1,300m²
- 延床面積：約3,100m²
- 竣工：2009年10月25日



E